

式 辞

愛宕山の残雪もいつの間にか消え、どこからともなく花の香りが暖かな風とともにただよい、春の訪れを感じる今日の佳き日に、保護者の皆様、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、松尾中学校第三十八回卒業証書授与式を挙行できますことを教職員一同、心から感謝申し上げます。

さて、百三十九名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本日をもって、九年間の義務教育の課程を終えることとなります。先ほどの卒業証書授与において、学級担任の呼名に、それぞれの思いを込めた返事で応えてくれる姿に逞しさを感じました。

思い返せば、皆さんが小学校の卒業を控えた令和二年二月二十七日に、突如、全国一斉の学校休校措置が宣言され、以来今日まで、臨時休校、時差登校、短縮授業などの感染防止のためのいくつもの特別措置が施行され、通常の学校生活は大きく変更・制限されることとなりました。

皆さんはバックナンバーの「水平線」という曲をご存じですか？コロナ禍で令和二年インターハイが中止されたときに、当時の高校生の思いを受けて作られた歌です。その中に「正しさを別の正しきで無くす悲しみにも出会うけれど」という歌詞があります。この状態を「ダブルバインド」と言います。「ダブルバインド」とは矛盾した命令を同時に与えられて、心が引き裂かれた状態になることを意味します。コロナ禍にあてはめると、ステイホームのように、感染予防のために行動の抑制をしなければならないという縛りと、その一方で、生活のために社会活動は継続しなければならないという真逆の縛りが私たちを二重に拘束することを意味します。両立困難に思えるのは、どちらも生きるためには必要不可欠なことだからです。その結果、私たちは、何が正解なのか、どちらを優先すればいいのか迷う状態に陥って、気が晴れない、鬱々とした気分になるような思いを経験しました。

ところが、そのことを入試前の面接練習で皆さんに質問したところ、一様に、「コロナ禍で行事の中止や学校生活が制限されたことは残念であるが、これまでの当たり前の生活が当たり前ではなく、学校生活や行事ができることへの感謝や幸せを感じることができた。」とか「今置かれた環境の中で何ができるかを考え、できることを精一杯することで、逆に自分自身成長できたと感じる。」等と答えてくれました。言葉の全てを鵜呑みはできませんが、前向きにこの3年間を捉えようとしていたことを聞いて、皆さんの学びと成長を強く感じました。思えば、松リンピックと称し、学年で様々な取組を考え、限られた条件の中だけでも盛りあげて楽しむ姿、修学旅行では規律ある行動と思いつき楽しんだ体験活動、そして、大刀洗平和記念館では、世界の平和が脅かされる緊迫した情勢のなか、平和の尊さ感じ、平和な世界の創造を誓いました。体育祭では全力で競技に挑み、最後まで諦めない姿勢を下級生に示してくれました。また、三年ぶりの合唱コンクールでは、皆さんにとっても初めての行事であったにも関わらず、練習から本番まで初めてとは思えない練習する様子と素晴らしい合唱でした。どの行事においても常に前を向き、腐らず、諦めず、今できることを精一杯チャレンジする姿は下級生の目標となりました。大きく成長した皆さんはここにいる大人たちの希望です。

これからの社会は、ダブルバインドと同じように何が正解かわからない予測困難な時代を迎えると言われています。多様な価値観が存在し、互いの価値観を尊重しながらも物事を判断して進んでいかなければなりません。それは決して容易なことではなく、前にも学校だよりでも載せたように 49 対 51 の厳しい判断をすることになるでしょう。しかし、皆さんは義務教育の中で、それを乗り越えていくためのヒントをたくさん学んできました。次のステージに進む卒業生の皆さんに、二つの願いをお話します。

一つ目は、「考えること・探究すること」です。自分の考えを掘り下げ深く考えることを大切にしてください。そして、主体的に探究することを通してたくさんの学びや力を身につけ、未来社会を創造する人になってほしいと願っています。

二つ目は、「向上心と修正力」です。皆さんはまだまだ未熟です。より良い自分に向かって進むなかで、途中で休んだり、方向を変更したりすることもあるかもしれません。必要に応じて目標や手段を自己修正していく力が大切となります。今の時代はキャリアチェンジ・キャリアアップの時代です。社会の中で幸せに生きていくための選択肢はたくさんあります。与えられた環境のなかで自分色の花を咲かせられることを心より願っています。

さて、本日、ご来賓として、松尾・嵐山東両自治連合会長様・PTA会長様、卒業生の門出を祝福していただきまして、改めまして感謝申し上げます。今後も引き続き、ご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の晴れの姿に、感慨もひとしおのことと存じます。お子様をいつくしみ、育んだ、深い愛情と、尊いご労苦に、心から敬意を表します。三年間、松尾中学校の教職員一丸となって、子ども達の成長を見守りつつ、精一杯努力したつもりではありますが、いたらない点もあったと思います。それにもかかわらず、私たちにお寄せくださいましたご理解とご協力に対して、厚く御礼申し上げます。

結びに、卒業生の見つめるその先の未来が、平和で希望に満ちた素晴らしい社会になることを心より願い、式辞といたします。

令和五年三月十五日

京都市立松尾中学校

校長 林 秀 雄